

20の リレートーク



石川

聡さん
(比叡)

今、感じていること

光陰矢の如し。気付いた時には成人を迎えていた。まさか自分がこの原稿を頼まれる側になるとは夢にも思わなかった。

高校卒業後、当たり前のように就職し、社会の中の荒波にもまれていた。学生の頃とは比べようのない忙しさである。

成人を迎え、一番感じている事は、自立心のある、互いに助け合うことが出来る大人にならなかつたことだ。

昨年、飯館村は合併せずに自立の道を選択した。

そこで重要になってくるのは、互いに助け合う事だと思ふ。実際、一人の力には限界がある、とても辛い。しかし、ある人から言われた事がある。

「努力は無限である」

だから何にでも挑戦しようという姿勢が大事なのだ。やらなければそこで終わる。けれど、可能性にかけてみる価値はきつとあるはずだ。決してあきらめる事なく、いつまでも挑戦者でありたい。常に前を向き、先を見据えてこれから先を生き抜かなくてはならない。

最後に、充実したこれらの生活を願って、頑張つていこうと思ふ。



「もったいない」の ぽけっと

もったいない

飯館村では、この4月から第5次総合振興計画がスタートします。いわゆる「までき」の「までき」です。

さて、このプランがいかにかこれからの時代を先取りし、時代に合ったプランであるかを、改めて証明されるようなことが、近頃の新聞に大きく報じられていましたのでご紹介します。

それは、昨年のノーベル平和賞を受賞したケニアの副環境大臣、マタイさんという方が、日本に来てみて素晴らしい発見をしたという話です。これから全世界が取り組んでいかねばならない全体的なことを、一言で言い当てる言葉が日本にはある。この言葉を「世界の共通語」として広めていこうという呼びかけをしていました。

その言葉は「もったいない」です。「もったいないから直して使おう」など、近頃あ

まり使われなくなってしまうましたが、私たちは以前良く使ったり、年輩の方に言われていた言葉ではなかったでしょうか。

成熟社会に突入した現在、これから全世界が考えていかなければならないこと、つまり大量消費しない、「ゴミを出さない」(リデュース)、そして物をもっと大切に使用する(リユース)、さらに資源を再利用して使っていく(リサイクル)、さらにさらに、修理して使う(リペア)の4Rを全て包み込んでいる言葉が「もったいない」ではないでしょうか。ということですが、いかがでしょうか。

「もったいない」とは「までき」と同意語ではありませんか。

これから世界中で進めていかなければならないこと、世界の共通語にしていこうということ、わが村は2年前から村民参加でつくってきたのが「までき」の「までき」だったのです。

この4月から、飯館村の10年計画が始まります。今の社会に慣れ切ってしまった私たちにとって、「まできな生活」は難しいところですが、村民の皆さんの行動が村の機関車になります。自信を持ってスタートしていこうではありませんか。

平成17年3月28日

飯館村長 菅野 典雄